

5 歳児保育指導案

- 1 日 時 令和 5 年 11 月 9 日（木） 9 : 00 ~ 10 : 50
- 2 対 象 児 5 歳児 たけ組（男児 2 名 女児 6 名 計 8 名）
- 3 場 所 各保育室・園庭
- 4 活 動 名 「わくわく遊園地で遊ぼう」

5 幼児の姿

- 10 月に運動会を経験し、チャレンジやリズム、係の仕事など、友達と力を合わせてやり遂げた充実感や満足感を味わったことが自信となり、友達と一緒に生活の場を整えたり、遊びの準備を進んで行ったりする姿が見られるようになってきている。登園後すぐに身支度を済ませ、友達と一緒に遊びの続きの準備をしている。これまでは、友達と遊びを進める中で、自分の思いを主張したり、思いを伝えきれず我慢したりする姿も見られた。友達との関わりが深まってきたことで、周りの幼児がその様子に気付いて言葉を掛けたり、それぞれの気持ちを伝え合ったりするなど、自分たちで解決しようとする姿が見られるようになってきた。
- 進級当初は、それぞれの幼児が自分の作りたい物を作って遊ぶことで満足していた。自分の思いやイメージが実現していく楽しさを味わう中で、次第に友達と一緒に必要な物を作ったり考えを出し合ったりして、お菓子屋さん、バスごっこなどいろいろなごっこ遊びを楽しむようになった。7 月の夏祭りでは、ジャングルを作り、探検をしようと友達とアイデアや思いを出し合い、協力して道や動物などを作り、遊びを進める姿が見られた。2 学期になり、魚作りから水族館に展開し、さらに遊具を組み合わせ、トンネルなどを作って楽しんでいる。一方、興味関心はあるが、自分の思ったことを表現しにくい幼児もいる。
- とんぼやばったなど、昆虫に興味をもっている幼児が多く、図鑑で生態を調べたり世話をしたりする中で、気付いたことや疑問に思ったことを伝え合う姿が見られる。また、どんぐりやまつぼっくりなどの秋の自然物に興味をもち、遊びに取り入れ、コリントゲームやケーキ作りなど、友達と一緒に試したり工夫したりしながら遊ぶ姿が見られている。
- 遊びの振り返り「おはなしタイム」は、1 学期からほぼ毎日続けており、ほとんどの幼児が楽しかったことや自分がした遊びを喜んで話すようになってきた。中には、自分の思いを聞いて欲しいという気持ちが強い幼児に圧倒され、なかなか思いを伝えられない幼児もいるが、友達が興味をもって頷きながら聞いたり、頑張っている事を認めたりすることで、伝え合う喜びを味わい、認め合う仲間関係ができてきている。

6 この時期のねらい（6期）

- 自分なりにめあてをもって、いろいろな活動に意欲的に取り組む。
- 友達と思いや考えを出し合いながら、協力して遊びや生活を進めていく。

7 本日のねらい

- 友達との関わりの中で、互いの思いや考えを出し合いながら、遊びを進めることを楽しむ。

8 指導にあたって

- 自分たちで遊びに必要な物を準備したり場を整えたりし、遊びを進めていくことができるよう、遊びの動線に配慮した場作りをし、用具や材料を取り出しやすいようにしておく。また、友達と思いを伝え合いながら遊びを進める中で思いがぶつかり合った際には、相手の思いに気付いたり折り合いをつけたりできるように、必要に応じて言葉を掛け、自分らしさを発揮しながら友達とのつながりを深めていくことができるようにする。
- 一人一人のアイデアを大切にし、幼児の気付きや工夫していることなどを、周りの友達に知らせ、イメージを共有するきっかけづくりをしていく。また、今日関心はあるが、思ったことを表現しにくい幼児には、その幼児なりの思いを見取りながら、一緒に考えたり遊び方を伝えたりして、友達とつながっていくことができるよう言葉を掛ける。さらに、友達と考えたことを実現していく充実感や達成感を味わうことができるように、幼児と共に必要に応じて環境を再構成しながら、遊びがより楽しくなるような工夫をしていく。
- 身近な自然物を取り入れて遊ぶ中で、試したり工夫したりしながら遊ぶことができるよう見守ったり、必要に応じて共に考えたりする。また、じっくりと取り組み、遊びが展開していくよう、いろいろな素材や材料を用意したり時間や場を保障したりする。
- 遊びの振り返り「おはなしタイム」では、一人一人の幼児の思いを受け止め、寄り添うことで、友達と遊びや活動の楽しさを共有していくようにする。さらに、自分の思いや考えを絵や文字で表し、幼児同士で伝え合うことができるよう見守ったり、必要に応じて言葉を掛けたりして、「もっとこうしたい」という意欲につながるようにしていきたい。

9 評価の観点（○幼児 ●教師）

- 自分なりのめあてをもって、いろいろな活動に意欲的に取り組んでいたか。
- 友達と共通のイメージに向かって、考えを出し合いながら遊びを進めることを楽しんでいたか。
- 幼児が自分なりのめあてをもって、活動を楽しむことができるような環境構成であったか。
- 幼児が友達と共通のイメージに向かって、互いの思いや考えを伝え合うことができるような援助を行っていたか。